

いま 現代に伝える・・・アザリア記念会

「賢治の故郷岩手」

との絆を深める現代の交流



河本家(御船道子氏) 小菅家(充氏) 保阪家(善三氏) 宮沢家(和樹氏) 保阪家(庸夫氏)

岩手大学創立60周年記念展示「アザリアの咲くとき」宮澤賢治と学友たち」が今年6月岩手大学で開催されました。これまで広く一般に知られることのなかった賢治と嘉内ら仲間たちとのストーリーや嘉内宛てに送られた他の仲間からの書簡なども展示され、今回の記念展示は「アザリア」の中心人物となった4人の子孫『賢治の実弟清六氏の孫の宮沢和樹氏、嘉内の長男善三・次男庸夫氏、小菅健吉氏の長男充氏、河本義行氏の次女御船道子氏』が一堂に会した、歴史的なイベントとなりました。

そもそも山梨と岩手とは古くから繋がりがあり、岩手県の前身、初代南部藩主の南部光行は、山梨県出身で今の中巨摩・南巨摩一帯を領していた加賀美次郎遠光の三男であり、富士川右岸の南部領が所領であったため、南部氏を名乗ったという歴史があるのです。



大きく育った杜陵小のやまなしの木

- 【岩手県との主な交流 2004年】
- ・岩手県盛岡市杜陵小からの依頼により山梨県知事が「やまなしの木」3本を杜陵小へ寄贈
 - ・岩手県知事が「ギンドロの木」3本を蕪崎市に寄贈（嘉内の母校北東小などに植樹）
 - ・アザリア記念会メンバーが岩手県を訪問、盛岡市岩手大賢治センターで保阪庸夫氏が講演
 - ・岩手大学（前盛岡高等農林学校）学長が嘉内の故郷蕪崎市を訪問
 - ・アザリア記念会メンバーが岩手大学（アザリアの咲くとき展示会）を訪問



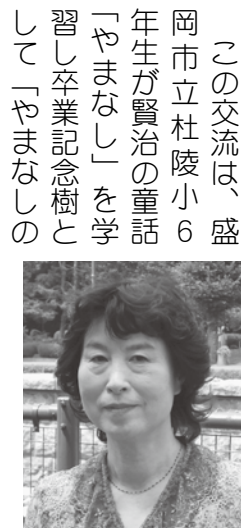
岩手県から贈られたぎんどろの木



記念展示図録

「特集」 保阪嘉内・宮沢賢治の友情を

山梨と岩手をつないだ
「やまなしとギンドロ」 友情の木の交流



元杜陵小学校長 石田紘子さん

この交流は、盛岡市立杜陵小6年生が賢治の童話「やまなし」を学習し卒業記念樹として「やまなしの木」を贈ろうとしたところからはじまりました。岩手では苗の入手が難しく、知人を介して山梨県に相談し、山梨県知事から温かい思いのこもった3本の「やまなし」の苗木が贈られました。「子どもの夢を叶えるのが大人の役割」だと苗木を一生懸命に探してくれたことに感謝し、本当にうれしく思いまた、知事さんのメッセージで初めて山梨県の韮崎がアザリアの友、保阪嘉内さんの故郷であることを知りました。

その後、賢治・嘉内生誕110周年記念事業実行委員会から「ギンドロ」をさがしているとの連絡があり、携わった人々の感謝の心がこもった「ギンドロ」の苗木3本が今度は、岩手県知事より韮崎市に贈られました。「ギンドロ」は2人の作品に共通して登場する友情の木です。それからは賢治と嘉内が天から応援してくれているかのように、岩手と韮崎との交流が自然な形で進んできました。これからも及ばずながらこの活動に尽力していきたいと思っています。



「ひつつみ汁・五平餅・にじますの塩焼きなど」

1月30日韮崎北東小の給食に「岩手のひつつみ汁」が登場し、4年生の社会科の特別授業で、岩手と山梨とのつながりについて「岩手県の昔の殿様は山梨県の南部町出身だから南部藩という名前がついた」「岩手県の童話作家宮沢賢治と心の友だった保阪嘉内は私たちの先輩」ということや「ひつつみ汁もほうとうからヒントを得ている」ということなどを学習しました。

子どもたちは興味しんしんで楽しく授業を受け、その日の給食は完食！岩手県を身近に感じたようです。



アザリアの友たち



盛岡高等農林を卒業した年の1918年から1926年まで渡米し、農学特に土壤細菌学を学んだ。帰国後は愛媛や京都の農林学校、さらには郷里の栃木の農業高校等で農業教育に力を尽くし、教育者として4人のなかでは唯一その生涯を全うした。

栃木県さくら市生まれ。栃木県立農学校卒業後、盛岡高等農林学校に進学し、賢治と同級生となる。入学当初から「校友会会報」に短歌や詩などを投稿し2年生の時には文芸欄の編集委員も務めた。賢治とお互いの名前を交換して「校友会会報」に作品を載せるなど、親交が深かった。

小菅 健吉
1897～1977



河本 義行
1897～1933

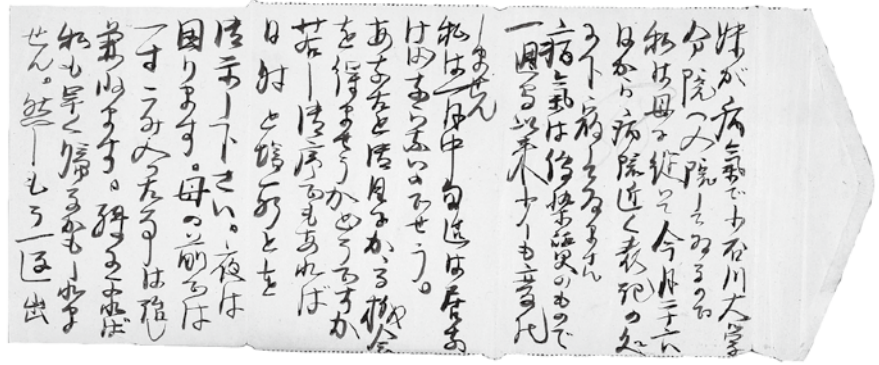
鳥取県倉吉市生まれ。倉吉中学在学中に荻原井泉水に師事し、緑石の号で自由律俳句の創作・研究を始めた。嘉内と同級で盛岡高等農林学校に入学後は、「校友会会報」に沢山の俳句を投稿し、文芸好きな学生からは一目置かれる存在となった。また、絵の才能もあり多くの日本画や洋画を描いている。

盛岡高等農林学校を卒業後は志願兵を経て郷里の倉吉で農学校の教師となるが、賢治の亡くなる2ヶ月前の1933年7月、海岸で生徒の水泳訓練中、溺れる同僚を救助した後、自身は力尽きて帰らぬ人となった。



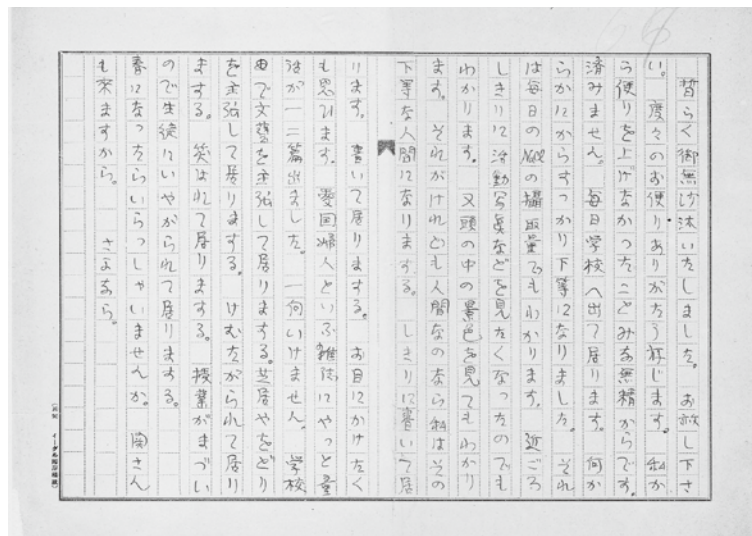
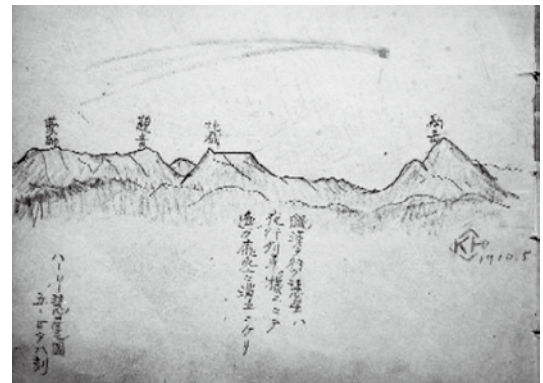
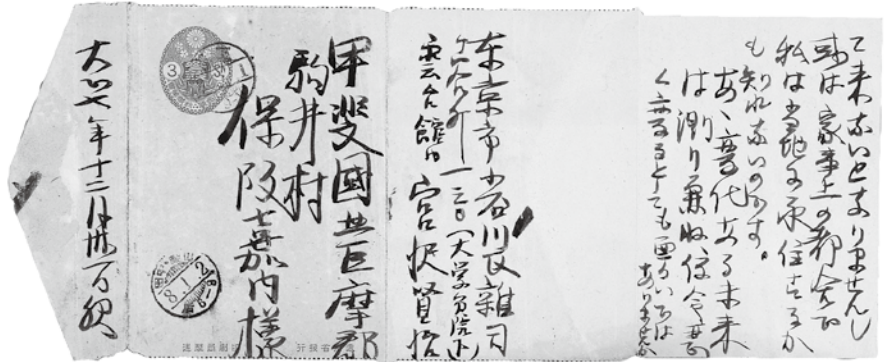
☆☆☆ 賢治から嘉内へ 友への手紙 ☆☆☆

友への手紙 36(右)
1918(大正7)年12月31日
妹トシの入院により看病のため上京した賢治からの手紙。
「病気は伝染質のもので一週間に来少しも変化しません。」とトシの病状を伝えている。嘉内と会う機会を求めているが実現はしなかった。



友への手紙 72(下)

1921(大正10)年12月(推定)
近況を知らせる手紙。
「しきりに書いて」いることや「愛国婦人」に童話が載ったこと、「春になったらいらっしやいませんか」などと綴られている。



銀漢を行く彗星は
夜行列車の様にて
遙か虚空に消えにけり

1910(明治43)年
嘉内の中学1年時のスケッチブックより南アルプス鳳凰三山から甲斐駒ヶ岳への連なりと、上空のハレー彗星を描く。

詩人や童話作家として日本でその名を知らない人はない宮沢賢治。その賢治に大きな影響を与え、農村改善のためのさまざまな試みを行った保阪嘉内。

嘉内の作品については、まだあまり知られてはいませんが、駅舎や汽車、電車などそして旅に関するものがかなり多いようです。

盛岡に行ったり、東京に行ったりと、汽車に乗ることが多かったためかも知れませんが、やはり鉄道に対する思い入れが強かったのではないのでしょうか。

そして、2人の友情の象徴ともされる、銀河鉄道……それこそが賢治が嘉内と乗りたいと願った列車(人生そのもの)であったのかもしれません。

写真・資料はアザリア記念会より提供していただきました。会の特集は今月で終わります。

葦崎市制施行 55 周年記念式典

メインタイトル

「花園農村の理想をかかげて」

— 空を越え、時を超え、
未来を開くアザリアの花 —

■会場：東京エレクトロン葦崎文化ホール

【アザリア交流記念の集い：大ホール】

10月11日(日)

【銀河の誓い in 葦崎・アザリアの友たち】

アザリアの仲間(保阪嘉内・宮沢賢治・小菅健吉・河本義行)の遺族や岩手大学(前盛岡高等農林学校)の関係者を迎え、実際に出演していただき壇上で交流を誓い合います。スライドとパネル・寸劇と音楽で嘉内と賢治の友情・アザリアの交流を表現し、観客と演者が一緒になって構成劇風のパフォーマンスを展開します。

【アザリア企画展：展示室】

10月10日(土)～12日(月)

【銀河の誓いは永遠に】

～保阪嘉内の足跡とアザリアの仲間たち～

宮沢賢治から保阪嘉内への73通の手紙の一部公開をメインにアザリアの仲間たちのからの手紙・アザリア同人誌など貴重な資料のパネル展を開催します。



10月11日に行われる市制施行55周年記念式典にアザリア記念会による記念の集いと企画展を開催する予定です！
ひと足早くその内容をお知らせしますので、当日はぜひ皆さまお誘いあわせて、会場の東京エレクトロン葦崎文化ホールへお越しください。



神楽団員を募集中！

若宮八幡宮神楽団では、舞(神楽を舞う役柄)、楽(笛・太鼓)、道具方(小道具、弓矢等の製作)を担っていただける団員を募集中です。年齢・性別・お住まいの地域は問いません。興味のある方のご連絡をお待ちしています。



■お問い合わせ

若宮八幡宮神楽団 団長 森本
☎ 22-1630 FAX 22-2367

7月16日(木)、若宮八幡宮神楽殿において第3回「まちづくり懇談会」が行われました。今回は「若宮八幡宮神楽団」の皆さまと「伝統文化の継承とまちづくり」と題して意見交換を行いました。
7月30日の夏の例大祭に向け準備や練習に忙しい時期ではありますが、後継者不足に悩む現状を踏まえ、市内神楽団との交流の場づくりの提案など伝統文化継承についての積極的な意見が出されました。

まちづくり懇談会の詳細については、市ホームページに
[http://www.city.nirasaki.lg.jp/art1114]
(内線355357)
■お問い合わせ
企画財政課企画推進担当



第3回まちづくり懇談会

「若宮八幡宮神楽団」と開催